



題字：星 猛 元静岡県立大学学長

2013年1月10日発行
第15号

発行者 創星会
〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1
(静岡県立大学内)

(食品栄養科学部 公衆栄養学研究室)

TEL: 054-264-5832

HP: http://www.geocities.co.jp/us_souseikai/

E-mail: souseikai@u-shizuoka-ken.ac.jp

★創星会とは★

静岡県立大学食品栄養科学部および大学院食品栄養科学専攻の卒業生・修了生と教員からなる会です。創立は平成7年11月4日で、現在会員数は約1,700名となりました。本会は、会員相互の連絡協調および会員と母校との連絡をとりまとめ、会員や母校の発展のために活動しております。「創星会」という名称は、本学部の獨創性を反映させ、また、卒業生の中からスターとなるような人物を生み出したいという思いから、諸先生方が命名してくださいました。

☆ご挨拶☆

静岡県立大学 木苗 直秀 学長

「強い絆を期待したい」



昨年、本学では創立25周年の記念行事として国際学術フォーラムや特別講義とともに各学部、研究科でホームカミングディと称して、卒業生と在学生との交流会を開催しました。

食品栄養科学部では開設時に16研究室がありましたが、当時の主任教員は全員が退官されました。本年3月末に定年退官された横越英彦先生、鈴木裕一先生、酒井坦先生から、星猛先生を中心に作成された学部の理念と目標を刻した「食品栄養科学部の創設記」のプレートが寄贈され、学部棟1階に掲げられています。改めて25年の歴史の重さと、学部が地域や世界に向けて多くの研究成果を発信できたことを喜んでいきます。

本年6月に、厚生労働省は「介護を必要とせず、自立して社会参加できる期間」すなわち健康寿命を公表しました。それによると、

静岡県は47都道府県の中で女性が1位、男性が2位、総合評価で1位でした。少子高齢化が更に進行することから、学部、大学院の卒業生、修了生との絆をさらに強固にし、健康長寿社会の実現を目指していくことが重要であると考えています。

今朝は学長室から紅葉した木々の間に雪化粧した霊峰富士がくっきりと見えました。創星会々員の皆様の一層の御活躍と再会を楽しみにしています。(平成24年10月寄稿)

創星会会長 円谷 由子 (公衆栄養学研究室 講師)



平成24年度から創星会の会長となりました円谷(つむらや、旧姓:常賀)と申します。学部5期生、大学院博士前期課程10期生で、卒業後は管理栄養士として病院、行政等で勤務後、平成21年12月に本学講師に着任しました。同窓会の重要性、同窓生の繋がりが大切であることを実感していましたので、着任時から創星会のお手伝いをさせて頂き、この度、会長を引き継ぐこととなりました。

会長就任を機に、卒業・修了生及び在校生の情報収集や交流の場になるよう「創星会室」を公衆栄養学研究室内(食品栄養科学部増築棟1階:調理実習室横で連結)に設けることとしました。卒業・修了生の皆様の卒業教育や転職等支援のため、自由に使って頂けるパソコンとプリンターを設置し、栄養計算ソフト(エクセル栄養君)や統計解析ソフト(SPSS)等を備えております。また、在学中から創星会を知ってもらうために、在校生にも活用してもらえるよう、過去の卒業アルバムや平成23年に作成配付した創星会名簿(氏名、了解を頂いた方の勤務先名と勤務先住所を掲載)を閲覧できるようにしております。公衆栄養学研究室教員又は学生が在室している時間(原則、平日10:00~17:00)の

使用とさせて頂きますが、お気軽にお立ち寄り下さい。予め使用したい日時のある場合は、tsumuraya@u-shizuoka-ken.ac.jpまでご連絡頂ければ、優先利用とさせて頂きます。

大学教員と家事育児の傍ら創星会運営を担うため、十分な活動ができないかもしれませんが、創星会が発展し、会員の皆様のご期待に応えることができるよう頑張りたいと思っておりますので、ご支援、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

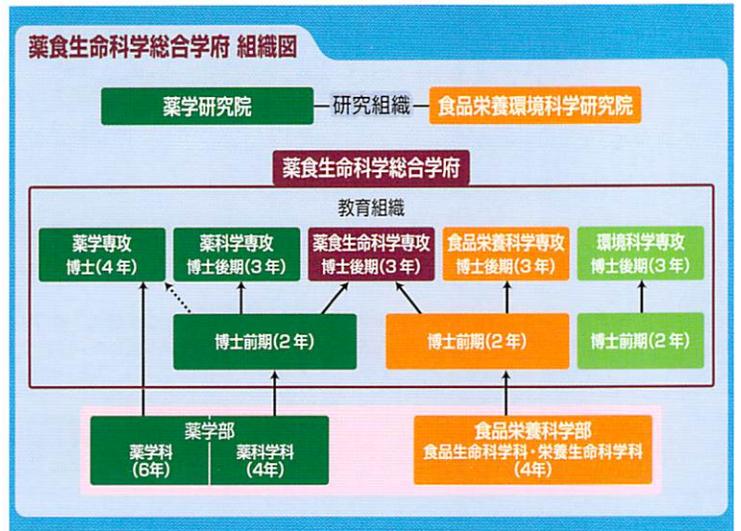
☆食品栄養環境科学研究所・薬食生命科学総合学府が開設されました☆

平成24年度に、「食品栄養環境科学研究所」が大学院生活健康科学研究科（食品栄養科学専攻及び環境物質科学専攻）の研究組織を引き継いで開設されました。

また、食品栄養科学・環境科学と薬学の両面から健康長寿科学の学問分野を拓く研究者及びその成果を実践できる高度な専門職業人と指導者を育成するために、大学院生活健康科学研究科と薬学研究科の教育組織が統合され、大学院「薬食生命科学総合学府」が開設されました。（右図）

このような教育組織の改組により、健康長寿科学に関する特論や演習など、より学際的な大学院教育プログラムを行うことが可能になりました。

- ・ 大学院食品栄養環境科学研究所長
（薬食生命科学総合学府 副学府長）
合田 敏尚 先生
- ・ 食品栄養科学専攻長
小林 裕和 先生



☆食品栄養科学部創設の記が設置されました☆

平成24年7月27日、平成24年3月に退官された酒井坦先生、鈴木裕一先生、横越英彦先生により寄贈された記念プレートが、食品栄養科学部棟1階に設置されました。このプレートは、1987年4月に創設された食品栄養科学部の創設25周年を記念し、初代学部長である星猛先生が掲げた食品栄養科学部創設時の理念と目標、創設時の教授・助教授の名前を記したものです。

食品栄養科学部は、生命科学を基礎とした総合的な知識と技術を身につけ、食と健康に関する様々な問題の解決に取り組むことができる科学者、専門技術者、管理栄養士、栄養士を養成してきました。この碑文に記された星先生の言葉を胸に、食品栄養科学部教員が一丸となり、教育・研究に日々邁進していくという決意を新たにしました。

食品栄養科学部創設の記

静岡県立大学の設置にあたり、1987年4月に食品栄養科学部が創設された。



創設時の理念と目標

総合的に食と健康の問題を追究すること、健康の問題はholisticである為、広い学問分野で支えられる必要があること、両学科間の相互関係はできるだけ密にすること、両分野とも自然科学として進歩するものであり、科学的研究を重視すること、食品産業は静岡県では重要な分野である為に食品の名も入れるべきであること、等を考え学部名を食品栄養科学部とし、広い科学の学問に支えられるという意味で英語ではSchool of Food and Nutritional Sciences とScienceは複数形で表示することとした。

初代学部長 星 猛「創立10周年に寄せて」より

創設当時の教授・助教授(敬称略)

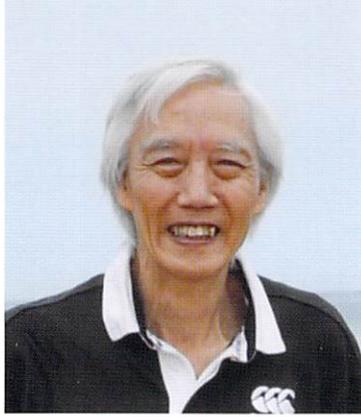
- | | |
|-------|------|
| 竹石桂一 | 小橋昌裕 |
| 木苗直秀 | 藤田暉通 |
| 上柳富美子 | 安達修二 |
| 神谷真太郎 | 江崎幸子 |
| 高瀬幸子 | 伊勢村護 |
| 野澤龍嗣 | 荒川泰昭 |
| 横越英彦 | 星 猛 |
| 蒔田和子 | 小石秀夫 |

創立25周年の記念の年にあたって



☆退官された教員の近況報告☆

酒井 坦 先生（元食品蛋白質工学研究室）



創星会の皆様、お元気でご活躍のことと存じます。私はこの3月に静岡県立大学を無事卒業いたしました。その際には創星会から立派な楯を頂きありがとうございます。これからは同窓生の一人としてよろしくお願ひいたします。

在職中の思い出には事欠きませんが、16年前にはじめて県立大学を訪れて、竹石先生、野澤先生にお会いし大学院への熱い想いをお伺いしたのが昨日のこのように思い出されます。当時、学長でいらした星猛先生の「学問の前ではみな兄弟」というお言葉は印象深く、哲学を語ることでできる素晴らしい先生と思えました。それ以来、食品栄養科学部の多くの尊敬できる先生方と一緒にできたことはとても幸せなことでした。学生諸君とも、怒ったり泣いたり大笑いしたりと沢山の思い出がありますが、みな意欲的で楽しい研究生活を過ごすことが出来ました。本学部の卒業アルバムにはいつも「一期一会」と書かれております。私も食品栄養科学部での一つ一つの出逢いを大切にしたいと思っています。退職して自由な時間が出来ると、在職中はホントに忙しかったと思います。この分野は進歩が早く世界の趨勢に遅れないためには、周りを見回すことのできる余裕のある時間が必要だと思います。星先生にはことある毎に「食品栄養科学部をよろしくお願ひしますよ」と言われました。充分なことは出来ませんでしたが、続く若い先生方が頑張ってくれるものと信じています。退職時に、鈴木裕一先生のご尽力で星先生のレリーフと共に学部の創立の頃のことを記したプレートをお贈りできたことは望外の喜びです。皆様には総会でお会いできることを楽しみにしております。（平成24年10月寄稿）

鈴木 裕一 先生（元生理学研究室）



私が静岡県立大学に赴任したのは創設7年目の1993年で、この春の定年退職まで19年間お世話になりました。今は、生まれ故郷の仙台にある仙台白百合女子大学教授として、解剖学、生理学、病理学などを教えています。管理栄養士養成課程なので県立大学にいたときと同じ内容の講義や実験です。でも、とても新鮮な感じがして張り切ってやっています。逆に言うと県立大学では少しマンネリになっていたのかもしれないと反省もしています。

卒業生皆さん、先頭はもう40代半ばの働き盛り、多くの方は間もなく働き盛りになるころですね！夢中になって生きていく中で、健康食品や放射線汚染など、様々な問題にぶつかっているといます。皆さんが学んだ食品栄養科学部はサイエンスの学部です。行動の選択にあたってはぜひ科学的な判断をして下さい。現在はテレビ、新聞、インターネットや書籍などで様々な情報が行き交っています。大学で学んだ科学的思考法を駆使して、質よい情報を選びとって行動することが大事ですね。

仙台の大学には週3日ほどおり、後は静岡にいます。毎週往復で大変だと言われますが、東北新幹線のE5系の車両はなかなか快適で、今のところ楽しんでます。何かありましたら以下のメールアドレスに連絡ください。

yuichi@u-shizuoka-ken.ac.jp（平成24年10月寄稿）

横越 英彦 先生（元栄養化学研究室）



創星会の会員の皆さん！お元気ですか？

静岡県立大学の建設時から、本学部の創設に関わり、25年を経て、定年を迎えました。正直、ここまで務めることになるとは思っていませんでした。毎年、新しく入学してくる学生、また、研究室に加わる新メンバーなどとの「出逢いの楽しさ：縁」に浸っている間に、あっという間にこの時を迎えました。それ故、多くの澆刺とした写真と、その時々思い出は沢山あります。一方、在職中に見た県大や富士山と、退職してから見る景色は少し違います。私は、卒業生と、やっと同じ気持ちになれたのかも知れません。また、週一回は新幹線から県大を見ますが、思い出になるということは、段々、私の心から離れていくことなのかも知れません。長い間、本当に、有り難う御座いました。また創設時、最年少の主任教官であった私を、今日まで導いて下さいました星先生を初め多くの教職員の方々に感謝申し上げます。

私はこの4月から、縁があり、中部大学応用生物学部食品栄養科学科に所属しております。早速1年生の担任やアドバイザーなどをしておりますが、学生が可愛く思える間は、まだ、大学であるのかなと思っております。生き生きとしたチャレンジ精神のある学生になって欲しいです。

県大の食品栄養科学部は、先人達の努力により、ある程度の認知度を得たと思われまふ。今後は、卒業生の皆さんが、それぞれの分野で活躍することにより、社会的にもより強固な信頼を獲得していけると思われまふ。学部・大学院、創星会の益々の発展を期待し、また、会員の皆様方の御健康を祈念致します。機会があれば、また、杯を交わしましょう。

☆研究室紹介☆

研究室の近況（食品化学研究室 渡辺 達夫 先生）

1995年に、初代主任の江崎幸子先生の後任として食品化学研究室にきて以来、17年半がたちました。これまでに、3人の助手・助教の先生方（古旗賢二博士（現城西大学薬学部准教授）：1997～2006年度、成川真隆博士（German Institute of Human Nutrition→現東京大学特任助教）：2008～2009年度、佐藤努博士（現千里金蘭大学生生活科学部講師）：2010～2011年度）に助けられながら、述べ52名の学部卒業生、31名の修士修了生、3名の博士課程修了生を世に送り出すことができました。写真は、今年9月に実施した同門会でのもので、60名弱が出席しました。



研究としては、カプサイシン類縁体の酵素法による合成法の開発（1995～2002年度）、新規トウガラシ成分の探索（1997年度～）、ソバ粉の安定化（1997～2002年度）、カプサイシン類の生合成（1998年度～）、カプサイシン受容体TRPV1活性化成分の探索（1999年度～）、TRPV1活性化成分の生理作用（1999年度～）、温度感受性TRPs発現細胞の構築と活性化成分（2002年度～）、非天然型カプサイシノイドの食品からの探索（2002年度～）、温度感受性TRPsアンタゴニストの探索（2010年度～）などを手がけてきました。これまでに、エネルギー消費を高めうる化合物を20以上、動物試験で内臓脂肪抑制効果を示す化合物数種を見出しました。中でも1997年に構造決定し、簡便な酵素合成法を速やかに開発したカプシエイトは、種々の研究を経て味の素社からカプシエイトナチュラとして2006年から市販されております。

現在、学生は博士課程3名、修士課程5名、4年生3名が在籍し、スパイスの成分を中心に、培養細胞を用いたスクリーニング、体温調節等に関わる動物試験、酵素のタンパク質と遺伝子からのアプローチによる精製などを研究しています。そのほか、客員共同研究員として企業の方が4名、大学の教員が1名在籍され、情報検索や食品に関係した各種実験を実施しています。

研究室の近況（臨床栄養学研究室 熊谷 裕通 先生）

木枯らしが吹く季節となり大学の周回道路に落ち葉が積もるようになりました。寒くなると空気が澄んできて、研究室から雪を頂いた清冽な富士山が臨めるようになるのは以前と変わらぬ光景ですが、教員室から見る静岡市街は東静岡周辺に高層ビルがいつの間にか増えていて時の移ろいを感じさせます。

臨床栄養学研究室では、大川助教（現在富山市在住）の退職後空席になっていた助教に昨年度磐田市立総合病院から吉田卓矢助教（平成20年修了）が着任し新たな体制で教育研究を始めました。本研究室では、以前から「腎疾患と栄養」を主たるテーマとして研究を続けておりますが、これまで行なってきた「腎疾患患者では何故栄養状態が悪化するのか」「栄養指標として何に着目するか」という研究から「腎疾患患者の栄養障害を如何にして改善するか」へと研究の視点を移してきております。最近では栄養指標としての筋肉量や筋肉代謝に着目し、腎不全による筋代謝マーカーの変化と食事（低たんぱく食）や運動の影響について検討を開始しております。また、地域貢献として、静岡県慢性腎臓病対策に関わるべく、静岡県健康福祉部健康増進課総合健康班や本学公衆栄養学研究室円谷講師と静岡県における慢性腎臓病の地域差について共同研究を進めています。今年度は特に、県内の慢性腎臓病患者を対象とした非常食講習会や伊豆地域における慢性腎臓病教室などにも力を入れています。さらに、診療所と連携して高齢者や在宅療養患者の栄養維持に関する研究も手がけています。



平成24年度研究室メンバー

現在の研究室メンバーは、教授1名、助教1名、大学院博士課程4名（うち留学生2名（スーダン、中国）、社会人1名）、修士課程4名、学部4年生2名、客員共同研究員2名と多彩な人材が集まっていますが、将来は管理栄養士として医療機関などで働くことを希望している学生が多いのは以前と変わらない状況です。

学会等で卒業生や修了生の皆様にお会いすることを楽しみにしております。
（平成24年11月寄稿）

留学生在が日本腎臓学会で発表



☆新任教員の紹介☆

伊藤 創平 先生（准教授：食品蛋白質工学研究室）

平成24年4月1日に、酒井坦先生の後任として食品蛋白質工学研究室に着任しました伊藤創平と申します。私は、東京大学大学院農学生命科学研究科で博士課程を過ごし、その後、食品蛋白質工学研究室の助手として勤務しておりました。私はこれまで、有用な二次代謝産物の産生に関与する酵素、人の疾病や治療に関与する蛋白質を対象に研究を行ってきました。まだ慣れないことが多く、授業、実習、各種委員会と日々戸惑うことばかりですが、熱意ある食品栄養科学部および食品栄養環境科学研究所の先生と学生に囲まれ、また充実した研究設備がある中で、教育・研究に携われることに感謝しております。創星会の皆様方にも教わることばかりかと思いますが、今後とも宜しくお願い致します。



三浦 進司 先生（准教授：栄養化学研究室）

平成24年4月より、横越英彦先生の後任として栄養化学研究室に着任した三浦進司です。私は旧清水市出身で、平成8年に本学大学院薬学研究科で学位を取得しました。学位取得後は平成13年まで米国National Institutes of Healthに留学、その後は国立健康・栄養研究所に約11年間勤務いたしました。この度は縁あって約15年ぶりに大学に戻って参りました。私はこれまでマクロニュートリエントの代謝に関連する研究を行っており、最近では運動が多様かつ全身性の効果を生み出す理由について、遺伝子を改変したモデルマウスを用いて分子レベルでの解明を目指しております。研究所から赴任してきたため、講義や実習などにおいて不慣れなことが多く日々戸惑っておりますが、健康長寿社会の実現に必要とされる人材の育成に少しでもお役に立てればと考え、努力して参りたいと存じます。創星会の皆様にはご指導ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



伊藤 聖子 先生（助教：調理科学研究室）

平成24年4月1日付けで調理科学研究室の助教に着任いたしました伊藤聖子と申します。私は、岩手大学大学院連合農学研究科博士課程で学位取得後、弘前大学研究機関研究員、(独)農研機構・食品総合研究所糖質素材ユニットにて農研機構特別研究員として勤務しておりました。これまで、食物繊維成分の植物細胞壁多糖を中心に、地域の食資源を活かした機能性食品の開発、加工利用法の研究を行ってきました。食を通して健康を考える食品栄養科学部において、「食べ物に含まれる食品成分、機能性成分をおいしく摂る」ということを科学的に追求していきたいと思っております。研究、教育ともに未熟ではありますが、食品栄養科学部の先生及び学生の皆様と、食と健康に関して熱く語る教員を目指し、日々の教育研究活動に専念していきたいと思っております。創星会の皆様には御指導と御支援を賜りますよう、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



細谷 孝博 先生（助教：食品分析化学研究室）

平成24年4月1日付けで食品分析化学研究室の助教に着任いたしました細谷孝博と申します。私は、千葉大学大学院医学薬学府で博士取得後、星薬科大学助教、一般社団法人バイオ産業情報化コンソーシアム特別研究職員を経て、本学に赴任いたしました。私はこれまで、天然物化学を中心とした研究を行ってきましたが、薬学の分野に席を置いていたこともあり、“治療医学”を見据えた研究を行ってまいりました。人の健康を考える上では、病気にならないという“予防医学”も重要であると考えており、これからは、“予防医学”も取り入れた研究・教育を行い、人の健康を、予防と治療の両方面からアプローチしていけたらと考えております。

まだ不慣れなことが多く、日々戸惑いも多いですが、創星会の皆様には、いろいろとご教授いただけたら幸いです。本学の発展のため、力の限り尽くさせていただく所存であります。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



☆管理栄養士国家試験2年連続100%合格！



平成24年3月18日に実施された第26回管理栄養士国家試験の合格発表が平成24年5月7日に行われ、平成23年度食品栄養科学部栄養生命科学科卒業生で受験した27名は、全員合格しました。平成22年度に引き続き、2年連続の新卒合格率100%となりました。

全国の管理栄養士養成施設118校のうち、新卒合格率100%の学校は本学を含め21校（前回は111校のうち5校）で、2年連続100%は本学を含め2校のみでした。全国では、受験者数21,268名、合格者数は10,480名、合格率は49.3%でした。卒業生が管理栄養士の資格を生かし活躍してくれることを期待しています。

（平成23年度管理栄養士国家試験対策委員 円谷由子）

☆会計中間報告（平成24年12月1日現在） 会計 大石 里夏

年月日	項目	収入	支出	残高
H23. 9. 1	繰越			¥3,266,464
H23. 9.27	はがき代		¥50,000	¥3,216,464
H23.10. 1	調整費(H23.4.1～H23.10.1)	¥349		¥3,216,813
H23.10. 6	はがき代		¥30,000	¥3,186,813
H23.10.14	郵送料(会報誌送料)		¥177,720	¥3,009,093
H23.10.18	郵送料(会報誌送料)		¥1,610	¥3,007,483
H23.10.19	郵送料(会報誌送料)		¥390	¥3,007,093
H23.10.27	郵送料(会報誌送料)		¥3,360	¥3,003,733
H23.10.28	会報・封筒印刷費(鈴与システムテクノロジー、振込手数料込)		¥71,715	¥2,932,018
H23.12. 2	創星会懇親会		¥52,587	¥2,879,431
H23.12.13	アルバイト代(創星会シンポジウム)		¥177,000	¥2,702,431
H23.12.22	郵送料(名簿送料)		¥289,590	¥2,412,841
H23.12.28	アルバイト代(4月～12月分×4名)		¥129,792	¥2,283,049
H24. 1.11	郵送料(名簿送料)		¥1,680	¥2,281,369
H24. 1.11	封筒印刷費(鈴与システムテクノロジー、振込手数料込)		¥30,975	¥2,250,394
H24. 2. 9	酒井先生・鈴木先生・横越先生退官記念品代(振込手数料込)		¥45,420	¥2,204,974
H24. 2.17	酒井先生・鈴木先生・横越先生退官講演花代		¥15,000	¥2,189,974
H24. 5.14	学部生入学時同窓会費(H24年度入学)	¥2,129,860		¥4,319,834
H24. 5.22	ホームページ月管理費(H24.6～H25.5)(振込手数料込)		¥18,410	¥4,301,424
H24.11. 5	アルバイト代(10月分×1名)		¥9,152	¥4,292,272

☆住所等変更登録、創星会メーリングリストへの登録のお願い

【住所を教えてください】

創星会会報を送付した際に、返送される場合が多数ございます。住所や名字等の変更がございましたら、創星会HPのトップページに「連絡先の登録・変更」欄を設けておりますので、そちらから変更登録をお願いします。

【メーリングリストにご登録下さい】

平成23年に創星会メーリングリストを立ち上げました。学内情報、講演会情報、就職情報等、有用な情報を発信してまいりますので、是非ご登録下さい（携帯メールアドレス、PCメールアドレス、いずれでも登録可）。

創星会HPの「連絡先の登録・変更」欄から登録できます。

【創星会の開催について】

今回の創星会総会・懇親会の開催は、平成25年秋頃を検討しております。日程等詳細が決まり次第、創星会HPや創星会メーリングリスト等での御案内を予定しておりますので、是非ご参加下さい。